

# I あいさつ

2022 年度を終えて

新型コロナウイルス感染対応に明け暮れた3年間でしたが、2年越しで、ようやく茨城県初の介助犬使用者が誕生し、初めての補助金を支給していただきました。これによって愛知県の方（2代目）と合わせて2名の方に介助犬を貸与することができましたことは、私どもにとって大きな喜びでありました。

これまでは、依頼があったものに対応することで精一杯でしたが、新たな挑戦の機会を得たことで、東北キャラバンを実施することができました。これからも介助犬がゼロに近い地域にはキャラバンを組んで積極的に啓発活動を行っていきたく思います。今回はその成果を出すことができ、職員の自信に繋がったことが何よりも意義深いことと思います。また、啓発イベントやセンターへの視察・見学も徐々に戻りつつある中で、テレワークのメリット、リモート会議やイベントの活用力は、今後もさまざまな活動の中でハイブリッドに活かしていけるように務める所存です。

昨年度は、常に目の前に多くの仕事が積まれる状態から解放され、職員自らが「何をすべきか」、「何ができるか」を考え、協会の事業理念、自分たちの役割、目標、姿勢を活かす形を模索して動き、一定の成果を上げることができたのではないかと思います。

聖マリアンナ医科大学病院では新たな勤務犬とハンドラーペアを誕生させ、DI 犬との「ふれあい」を提供するべく名古屋市児童相談所とも提携契約を結ぶことができました。今後は、より多くの関係機関と提携契約や連携ができるよう、社会ニーズに応じて参りたいと思います。当協会がどのようなSDGsに取り組んでいるかを検討し、HPでの公開に向けて議論する中で、現実の社会ニーズに応える意義を一層深めることができたのではないかと思います。

新型コロナウイルスにより査察官の来訪が遅れ、3年越しでようやくADI認可をいただくことができました。今後は、ADI認可団体として、よりグローバルに、世界中からの情報収集やネットワークの拡大に努め、職員個々の視野を広くもってキャリアアップを図りたいと思います。そのため、職員の処遇改善や研修制度の充実に向けて具体的な検討を進めて参ります。

私は今年度限りで退任することになりますが、新理事長をはじめとする新体制のもと、当協会がますます発展することを心より願っております。今、社会ニーズは「身」から「心」へ大きく変化しており、人も犬も、新たなニーズに的確に対応することが期待されています。関係者の皆様には、職員がこれらのニーズに柔軟に対処できるよう、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

理事長 伊藤 利之

## Ⅱ. 令和4年度 事業報告

### 1. 介助犬育成事業

- (1) 肢体不自由者に対する介助犬貸与  
介助犬総合訓練センターにて、2組の合同訓練を行い、指定法人より認定された。
- (2) 犬の飼育及び訓練
  - ① 候補犬の訓練  
候補犬 34 頭（新規入所犬 26 頭）を確保し、評価及び訓練を行った。
  - ② パピーに対する訓練及びパピーホームボランティアに対して対面もしくはオンラインでの来訪デイや預かりレッスン見学等を実施、指導を行った。
- (3) 繁殖
  - ① 1 回の出産を行い、2 頭のパピーを確保した。
  - ② 6 頭の繁殖犬（雌 3 頭、雄 3 頭）を確保した。（新規 1 頭、引退 1 頭）
  - ③ 犬山動物総合医療センターの協力のもと、人工授精手術を 1 回行った。
  - ④ 岐阜大学へ凍結精液の作成を相談の上依頼した。
- (4) 介助犬使用者に対する継続指導
  - ① 継続指導  
新規認定者を除く全使用者 15 名に対し、「アフターチェック表」、「介助犬健康診断書」を送付し、書面による現状把握を行ったのち、訪問により実際の生活状況の確認を行った。訪問での継続指導の他に、電話・メール・オンラインでの継続指導を実施した。  
（訪問指導/オンライン指導：21 回、電話/メール等：80 回）
  - ② 使用者交流会  
10 月 30 日(日)にオンラインにて開催した。参加使用者は 11 名であった。
- (5) 介助犬使用者に対する就労・継続支援  
使用者の就労継続に関して相談や支援を行った。

## 2. 普及啓発・広報活動

### (1) 普及啓発イベント・講演会の開催

#### ① 「介助犬フェスタ 2022」の開催

- ・広く一般に介助犬普及啓発を実施することを目的とし、Youtubeにて生配信をすることに加え、新しい取り組みとしてVRを利用して開催した。関連動画投稿数は17本、関連動画総再生数7,000回を超えた。(2022年6月9日時点)初のVR空間では250名を超える参加があった。
- ・オンラインの介助犬フェスタ内で感謝の集いを開催し、介助犬ペアの誕生、協会の活動紹介について報告をした。

#### ② 介助犬キャラバンの開催

介助犬啓発と潜在的な介助犬希望者の発掘を目的とし、6月20日(月)～7月1日(金)の約2週間で東北6県(宮城・岩手・青森・秋田・山形・福島)において、当会としては初の介助犬キャラバンを実施した。厚生労働省東北厚生局、県議会議員訪問、県や市の障がい福祉課、募金箱設置店や法人会員などの支援者訪問など33か所、延べ750名以上の方に直接啓発活動を実施し、テレビ7件、新聞7件、その他WEBメディアにも露出した。

#### ③ 啓発活動の継続実施

- ・見学会の実施

実施日	名称	回数	参加者数	開催場所
4月24日(日) 6月4日(土) 9月25日(日) 10月8日(土) 11月13日(日) 12月17日(土) 1月14日(土) 2月25日(土) 3月11日(土)	一般見学会(来場型)	9	242名	センター
6月4日(土) 8月21日(日) 11月13日(日) 3月11日(土)	一般見学会(オンライン開催) ※ハイブリッド開催を含む	4	51組	センター

- ・イベント・講演会 : 161件(内オンライン実施・オンデマンド:13件)
- ・訓練センター視察 : 23件

・肢体不自由者等への啓発

名称	日程	参加方法（開催場所）
バリアフリー2022	2022年6月8日（水）～10日（金） 5月16日（月）～7月29日（金）	ブース出展（インテックス大阪） オンライン出展
ウェルフェア 2022	2022年5月26日（木）～28日（土）	出展なし
ヨコハマヒューマン テクノランド 2022	2022年11月28日（月）～	オンライン出展 （オンライン開催）
国際福祉機器展 2022	2022年10月5日（水）～7日（金）	補助犬コーナー出展 （東京ビッグサイト）

・はたらくワンワンランド（JA 共済連主催）の実施

10件実施（山形県、福島県、東京都、愛知県、三重県、岡山県）

・下記の大学や専門学校にて啓発活動を実施（順不同）

<大学>

愛知医科大学、藤田医科大学、朝日大学、日本福祉大学、淑徳大学、  
帝京科学大学、大阪保健医療大学、名古屋外国語大学、山梨学院大学  
神奈川県立保健福祉大学、横浜市立大学、ハワイ大学、ヤマザキ動物看護大学

<専門学校>

名古屋スクールオブビジネス、東海医療科学専門学校、  
カコトリミングスクール、アルファ医療福祉専門学校、  
専門学校ちば愛犬動物フラワー学園、東京 YMCA 医療福祉専門学校  
神戸動植物環境専門学校、専門学校愛知保健看護大学校

・企業連携企画の実施

読売巨人軍および菅野智之投手（介助犬サポート大使）とのタイアップを  
継続し、東京ドームへの出展、チャリティコラボ商品の企画・販売、沖縄  
キャンプでのコラボを行い介助犬の認知度向上に繋げた。

出展回数：32回 ※内、地方試合出展3回

チャリティコラボ商品：計3点

（累計販売数：2,760枚、累計販売金額：6,228,510円）

・ファイティングイーグルス名古屋とタイアップを開始。PR犬2頭へユニフォームを寄贈いただき、チームスタッフとして入団。シーズン中の定期的なブース出展を行っている。

<他企業との提携>

- ・株式会社モンベル：サポーターカード
- ・タリーズコーヒージャパン株式会社：店内補助犬受入動画配信
- ・イオンペット株式会社：絆キャンペーン募金

(2) PR 犬の育成・訓練の実施

介助犬啓発活動に参加する PR 犬の作業力維持、並びに広報担当職員の技術向上のため、訓練部と連携し PR 犬 7 頭の育成・訓練を行った。また、訓練部と連携し、情報共有のために PR 犬ミーティングを実施した。

(3) マスコミ対応等

① 取材対応実績

テレビ取材：17 件 新聞掲載：41 件 雑誌・広告等掲載：20 件  
その他（WEB 記事等）：32 件

② プレスリリースサイト（PRTIMES）を通じて計 34 件のプレスリリースを実施し、計 756 件の記事転載が行われた（広告換算額：10,652,493 円）。

(4) 会報誌・ホームページ、その他制作物を活用した広報展開

① 年間 4 回の会報誌作成・発信を行った。

② 協会の活動が SDGs のどの項目に当てはまるかを検討し、ホームページに「SDGs 達成への取り組み」のページを新設してホームページの充実を図った。

③ 2 月に 1 度ホームページ運営会社と MTG を行い、支援者獲得、チャリティグッズ販売促進に繋がるように導線の検討・改善を行った。

(5) SNS (Twitter・Facebook・Instagram・Youtube・note) の活用

SNS を活用し支援者への情報発信・啓発活動に努めた。

各 SNS のフォロワー、登録者数等は下記の通り

名称	登録者数等
Twitter	6,807 フォロワー
Facebook	10,831 フォロワー
Instagram	11,417 フォロワー
YouTube	2,860 登録
Note	30,559 View

- (6) リハビリテーション専門関連学会、獣医療関連学会へのブース出展等  
以下の学会にて、リハビリテーション専門職等への介助犬の理解を深めるため、デモンストレーションの機会を得た。また、オンライン開催の特性を活かし、WEB展示やPR動画での参加の機会も得た。

#### 【2022年度学会一覧】

学会名	日程	開催地
第57回日本脊髄障害医学会	2022年11月17日(木)～18日(金)	パシフィコ横浜
第14回日本身体障害者補助犬学会	2022年12月10日(土)現地開催 2022年12月17日(日)～2023年1月31日(火)オンデマンド開催	中部国際空港 オンライン開催
第57回日本理学療法学会 2022in とやま	2022年7月9日(土)～10日(日)	オンライン開催

- (7) ボランティア・キャリアチェンジ犬ファミリー向け講習会・交流会等の実施
- ① VRスペースでのボランティア交流会を5月15日(日)に開催した。
  - ② キャリアチェンジ犬ファミリー交流会を11月13日(日)に わんだフルネイチャービレッジにて開催した。

### 3. 公益的な活動

- (1) 聖マリアンナ医科大学病院へ3頭目の勤務犬貸与、およびハンドラー養成に向けてセンターでの研修、病院での実地研修を行った。
- (2) DIを導入している以下の機関へのハンドラー指導を継続的に実施した。  
機関名：聖マリアンナ医科大学病院、楓の丘こどもと女性のクリニック
- (3) 野のすみれクリニック、千葉リハビリテーションセンター、名古屋市中心児童相談所一時保護所にてDI活動を実施した。
- (4) With Youプロジェクトとして、重度知的障害児のいる家庭、ASDやADHDのある児童のいる家庭などの9家族へ譲渡した。
- (5) 子ども支援センターつなぐからの付添犬派遣要請に応じた。
- (6) DIを希望する専門職・専門機関からの相談への対応  
川崎市児童相談所の一時保護所でトライアルとしてDI活動を開始した。

### 4. 相談・指導助言

- (1) 介助犬希望者への相談支援
  - ① 介助犬に関心のある障がい者を対象に、オンラインにて相談会を6月26日に実施し、山梨県・滋賀県・愛知県から3名の参加があった。  
オンラインによる個別面談を強化し、18回の個別相談を実施した。
  - ② 介助犬希望者宅への訪問相談・調査の実施を5回、犬連れ訪問を2回行った。
  - ③ 介助犬希望者・待機者を対象にした体験入所は対象者なしのため行わなかった。

## 5. 調査研究

### (1) 各学会への参加、演題登録

第14回日本身体障害者補助犬学会では専務理事高柳が大会長を務めた。役員1名、職員5名が講演、シンポジウムやショートレクチャーのコーディネーター、一般演題の発表を行った。また職員17名が参加した。

#### 【大会長講演】

人と犬をつなぐ、人と社会をつなぐ補助犬  
～人にも動物にもやさしく楽しい社会を目指して～  
専務理事 高柳友子

#### 【シンポジウム/コーディネーター】

海外からの補助犬使用者の受け入れ  
～東京パラリンピックに向けての準備から受け入れ実態まで～  
訓練センター長/訓練部長 水上 言

#### 【ショートレクチャー/コーディネーター】

補助犬と一緒にやってみた ～旅行、転職、国際大会～  
訓練センター長/訓練部長 水上 言

#### 【演題発表】

- ・補助犬トイレ、どう進め、どう検証と改善する？  
～横浜市庁舎の補助犬トイレ設置から改修、これから～  
高柳 友子
- ・介助犬育成における介助犬訓練犬の外部訓練の受け入れに関して  
櫻井 友衣
- ・自己実現の目標達成を考えた介助犬希望相談支援事例  
柴原 永佳
- ・コロナ禍で障がい者の自立と社会参加促進に寄与できる人材育成・  
地域支援者を増やす事を目的としたオンラインセミナーの実施報告  
水谷 悠美
- ・日本介助犬協会におけるSDGs達成に向けた取り組みについて  
渡邊 真子

## 6. 関係団体協力

### (1) 補助犬育成団体との連携

- ① 日本盲導犬協会、北海道盲導犬協会、関西盲導犬協会、東日本盲導犬協会等との繁殖協力、キャリアチェンジ犬の導入先としての団体間の関係継続に努め、東日本盲導犬協会から成犬2頭を導入した。
- ② 日本身体障害者補助犬学会へ団体会員としての加盟

(2) 諸外国の補助犬団体との連携強化

諸外国の補助犬団体と、介助犬の育成や繁殖事業に関する交流を実施した。

- ① 11月にADI (Assistance Dogs International) の査察を受け、2023年1月に認可団体として承認された。
- ② Career Dogs Australia へ犬の導入についての相談を行い、パピー5頭を導入した。

(3) 医療・福祉・行政等との連携強化

愛知県障害福祉課、公園緑地課、ジブリパーク推進課と介助犬フェスタにおける介助犬啓発の連携の可能性について検討した。

## 7. 補助・助成等

(1) 介助犬貸与に関する補助

2022年度認定者在住の自治体より、介助犬貸与に対して下記の通り給付決定した。

都道府県名	補助金額
愛知県	1,500,000円
茨城県	2,020,000円

(2) 啓発事業に関する補助

愛知県より、介助犬啓発事業の補助として123,000円が給付決定した。

(3) ふるさと応援活動支援事業としての補助

長久手市より、「介助犬総合訓練センター～シンシアの丘～の介助犬育成啓発・公益的な事業」として6,006,000円が給付決定した。

(4) 助成団体・事業

名称	金額	事業内容
全国生活協同組合連合会 埼玉県民共済生活協同組合	450万円	犬の介在による、生き辛さを抱える子どもたち・障がい者の支援事業
シンシア基金	20万円	介助犬育成・普及に携わる人材育成のためのオンラインセミナー開催費用
中部ウォーカーソン	10万円	日本介助犬協会リニューアルWEBサイトにおける活動啓発コンテンツの作成

(5) その他

イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン / Amazon 欲しいものリスト

## 8. 管理・運営

### (1) 理事会・評議員会の開催

定款に定める理事会・評議員会を以下の通り開催し、適正な運営に努めた。

\*役員等体制（2023年3月31日現在）

理事・・・6名      監事・・・2名      評議員・・・10名  
 会長・・・1名      副会長・・・1名      顧問・・・2名

#### <理事会>

開催日	出席数	議案	審議結果
第1回通常理事会 2022年5月19日 オンライン開催	理事5名 監事2名	第1号議案 令和3年度事業報告及び決算の件 第2号議案 関根理事退任に伴う後任理事候補者の決定の件 第3号議案 顧問委嘱の件 第4号議案 令和4年度常勤役員報酬等の個別額の件 第5号議案 定時評議員会招集の件	可決
第2回通常理事会 2022年10月20日 オンライン開催	理事6名 監事2名	第1号議案 「介助犬の育成・提供福祉サービス等に関する苦情対応について（指針）」の改定の件 第2号議案 関口委員辞任に伴う第三者委員選任の件 第3号議案 役員賠償責任保険更新加入の件	可決
第3回通常理事会 2023年2月24日 オンライン開催	理事6名 監事1名	第1号議案 定款変更の件 第2号議案 常勤役員報酬規程変更の件 第3号議案 組織規程変更の件 第4号議案 福祉医療機構借入金一括返済の件 第5号議案 令和4年度補正予算及び資金の積立ての件 第6号議案 税理士法人津田明人税理士事務所への経理業務委託の件 第7号議案 令和5年度事業計画及び収支予算の件 第8号議案 令和5年度施設長等の選任の件 第9号議案 令和5年度4～6月常勤役員報酬の個別額の件 第10号議案 定款施行細則変更の件 第11号議案 就業規則変更の件 第12号議案 育児・介護休業等規程の創設の件 第13号議案 役員等旅費規程変更の件	可決

<評議員会>

開催日	出席数	議案	審議結果
定時評議員会 2022年6月17日 オンライン開催	評議員 10名	第1号議案 令和3年度事業報告及び決算の件 第2号議案 理事補欠選任の件	可決

(2) 寄付収入および賛助会員数増加施策の検討・実施

- ① 法人会員・法人支援者へアプローチ回数を増やし、新規支援獲得を目指した。
  - ・2か月に1回程度メールリストを配信した。
  - ・コロナ禍により控えていた法人訪問を再開した
  
- ② 主にマンスリー会員数・口座振替会員の増加を目指し、新規入会促進施策を検討、また既存会員の継続と会員とのコミュニケーション充実を図った。
  - ・会報101号(4月)会報同封の払込用紙での会費領収書に口座振替の案内およびクレジットカードでの会費の案内を同封した。
  - ・介助犬フェスタにて新規入会特典を掲げて入会を促した。(4名入会)
  - ・高額寄付者にカレンダーやお礼状を送付した。
  - ・2か月に1回程度の頻度でメールリストの配信を行った。
  
- ③ 収益事業を充実させ、社会福祉事業へ組み入れる寄付額の最大化を目指した。
  - ・仕入れ先を商品別に検討し偏りの無いような配慮と同時に、目指したい原価率の商品化を実行した。
  - ・コロナ感染の影響で直接販売の機会が減り計画より売上が減少したが、WEB販売での売上確保に努めた。
  - ・昨年同様、社会福祉事業に税引き後利益の99%超の寄付を実行できるよう、資金の運用を行った。
  
- ④ イベント・街頭募金活動等の件数減少による収入減を補う策を実施した。
  - ・硬貨取扱い手数料発生への打開策としてゆうちょ免除口座を開設し、募金箱設置店へ案内を開始した。
  - ・キャッシュレス募金 auPAY、Amazon Pay を開始した。(auPAYは2月に終了)
  - ・ホームページの寄付フォームで利用できるクレジットカードブランドの追加審査が承認され、新たに JCB・AMEX・Diners が利用可能になった。
  - ・ホームページの英語版寄付フォームを実装した。
  - ・古本チャリティ募金に参画した。
  - ・READYFOR 継続寄付を公開した。

- ⑤ 寄付型ラッピング自動販売機の導入の促進。
  - ・新たに6件7台の設置ができた。
  - ・設置店とのコミュニケーションとしてアンケートを実施した。設置店の紹介を定期的にホームページやSNSで発信した。

(3) 年間行事の実施

① 慰霊祭

10月29日(土)納骨式、オンラインでの慰霊祭を開催した。

② 使用者の集い

10月30日(日)にオンラインにて開催した。参加使用者は11名であった。

(4) 計画的な施設保守・営繕の検討・実施

① 年間スケジュールに沿って施設の各種保守点検を実施した

② 避難時に人と犬が安全な動線を確認するため正面玄関エリア柵の設置やドッグランの活用について検討した。

③ 保有車両について、購入後10年経過、走行距離10万キロを超えた車両、3台の買換えをおこなった。そのうち2台は未使用車につき価格を抑えて購入ができた。来年度買換え予定の車両についても助成金の申請が通り購入できる事が決定した。

④ ファイルサーバーPCに関する保守契約期限を2023年12月に控え、機材の入れ替えを検討した。

(5) 業務効率化とコストダウン施策の検討・実施

電気料金高騰につき節電を徹底し、空調節電システムを利用した電気料金削減を検討した。

(6) 労働環境の整備と法令の遵守

職員の実状に即し、給与規程の諸手当の見直しを行った。また職員の労働環境の整備のためフレックスタイム制度導入の検討を行った。

(7) 目標設定・人事評価システムの活用

昨年度より継続し目標設定の改善に向けて評価者ミーティングや職員への説明、評価結果を昇給や賞与査定へ連動させるべくシステムを活用した。

## 9. 人材育成・研修

(1) 訓練技術向上

① 訓練士の育成

訓練担当者へのOJTの他、職員一名に合同訓練を1ケース担当させた。

② Ultimate Dog Training Japan, Marina Rodriguez氏によるトレーニング研修を継続して行った。

(2) 研修生制度

- ① 研修生制度の再開について検討した。
- ② 短期間オンラインセミナーを実施した。

(3) 研修等の受講

- ① リハビリテーション関連、犬関連に関するセミナー等の受講  
犬のトレーニングに関するセミナー、パピートレーニングに関するセミナー、  
犬の救護に関するセミナーを受講した。
- ② 普及・広報活動に必要なセミナー等の受講  
プレスリリースの書き方セミナー、どうしたら取材されるか基本のコツセミナー  
を受講した。
- ③ 階層別研修として11月4日（金）に主任副主任研修を実施した。

## 10. その他

- (1) 名古屋市総合リハビリテーションセンターへ介助犬認定審査相談員として役員  
1名、認定審査委員として職員1名、兵庫県立総合リハビリテーションセンター  
へ認定審査員として職員1名を派遣した。
- (2) 名古屋市動物愛護推進員として職員2名を派遣した。
- (3) 国土交通省 鉄道局交通政策審議会専門委員として役員1名を派遣した。
- (4) 愛知県新体育館バリアフリー整備のための意見交換会およびセントレア空港  
トイレUD意見交換会へ役員1名、職員1名を派遣した。